

令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：21020

「学ぶ力」	
これまでの成果	課題
◇教材・題材・活動の工夫により、学習に向かう子どもの意欲が高まった。 ◇「互恵的な学び」を視点に授業改善を図ったことで、協働的な活動を通して学習を深める子どもが増加した。 ◇全校一斉の取組を数年継続したことで、家庭学習の習慣づくりができた。 ◇毎時間の学習に振り返りを位置付けたことで、経験の概念化が図られた。	◇学習活動を通じた思考と表現の一体的な充実 ◇自分の考えを表現することへの自信 ◇論理的思考力の育成 ◇学習の転移 ◇学習において自己調整力を発揮・伸長させることのできる場
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
◇学校研究、各行事への取組等により、児童の相互受容的な態度や協働的に学ぶ姿が顕著に見られ、他者への承認については一定の成果が上がっている。一方、児童アンケートでは、「自分が必要とされていると感じる」「思っていることや感じていることを人に伝えている」「失敗を恐れなくて挑戦している」といった項目が低く、自己承認、他者からの承認、自己肯定感、自己有用感に課題が見られる。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	◇研究主題を「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力」の育成とし、相互承認の感度を高めることを基盤としながら、本校の児童の実態に応じた課題探究的な学習の在り方を明らかにする。 重点1 Anticipation 見通しをもつ場 重点2 Action 個別探究と協働探究の場 重点3 Reflection 学びを振り返る場 ◇校内研修の充実 教職員が自ら学びをデザインする研修体制を実現するために、教員が自らの目標をもち、ニーズを明確にしながら参加する研修を実施する。	◇日常の教育活動や各種行事の中で、子どもが意思を表現し、それを実現できるような活動を実施していく。 【活動実績】 ■ドリームプロジェクト～兄弟学年との交流活動 ■資生館おめでとうの会～子どもが創る開校記念行事（毎年実施） ■開校20周年記念缶バッジデザインコンペティション

〈本プログラムの実行に向けて〉

